

A：岩手県コース  
時岡 やちよ（1977・文）

2012年3月末をもって35年間勤めた京都府立高等学校社会（地歴・公民）科教諭の職を辞し、ただちに震災ボランティアに参加した。

在職中は気になりながらも職場を離れるという気持ちは起きなかった。仙台市若林地区の農地での作業は1日約6時間。黙々と皆がスコップを動かし固まっている土を耕す。小学生から60代までの男女が汗を流した。震災から1年経っているのにこの状態とは……。怒りと悲しみが湧いた。7月、このツアーに迷わず参加申込みをし、10月13日、大槌地区に立った。側溝は土に埋もれたまま。ショベルカーやダンプが通り固められてしまった土。街の相はない。ここに生活が再生される日はいつのことか。空は青く、海は静かで美しい。応援するとはどういうこと。若林地区での「これでじゃが芋が植えられる」という笑顔は忘れ……。ない。夜行バスで若者たちは今もボランティアに向かう。では私は？お土産を買い、卒業生や元同僚に絵葉書を書くことくらい。東北の自然は美しい。多くの方々にお世話になり、言葉を交わすことができた今回の旅に心から感謝しています。

旅は始まったばかり。模索は続く。